

『就実論叢』第48号 抜刷

就実大学・就実短期大学 2019年2月28日 発行

就実大学・就実短期大学における共同学修スペース （「コモンズ」）の利用状況に関する調査報告

A report on the use situation of collaborative learning spaces
of Shujitsu University and Shujitsu Junior College

石 黒 太 ・ 宇 野 朋 幸
野 村 照 代 ・ 難 波 保 夫
桑 原 和 美

就実大学・就実短期大学における共同学修スペース 〔「コモンズ」〕の利用状況に関する調査報告

A report on the use situation of collaborative learning spaces of
Shujitsu University and Shujitsu Junior College

石 黒 太 (教育開発センター)・宇 野 朋 幸 (総務部)

ISHIKURO Futoshi

UNO Tomoyuki

野 村 照 代 (総務部)

・難 波 保 夫 (学生部)

NOMURA Teruyo

NANBA Yasuo

桑 原 和 美 (教育心理学科)

KUWAHARA Kazumi

キーワード：ラーニング・コモンズ、アクティブ・ラーニング、自主学習、
学修支援、学習支援、学生支援

はじめに

本報告は、就実大学・就実短期大学教育開発センターに設置されたコモンズ調査ワーキンググループ(WG)が実施した就実大学・就実短期大学(以下、本学)における共同学修スペース(本学では「コモンズ」と称している)の利用状況に関する調査報告である。

本学教育開発センターは、教育課程・教育方法の向上・改善、教職員教育力の向上等と並んで、学生の学修力向上、学生生活の支援を本務の一つとしており、2018年度の年間方針の一つとして学修・生活環境整備と現有設備の有効活用に関する提案を行うことを掲げている。本学においては、学修・生活環境に関連する学生施設として、カフェテリア、学生ホール、スタディールーム、コモンズ等、多種多様な施設が設置されており、それぞれ学生の福利厚生に寄与している。ただし、それらの施設の利用状況や学生の利用実態については、必ずしもこれまで把握されてきたわけではない。また、これらの施設に対する学生の要望に関する調査も限定的なものにとどまっている。今回、コモンズ調査WGは、2018年度前期中に2度にわたって、本学において複数の学生による共同での学修を含む能動的な学修の促進を企図した施設である「コモンズ」の利用状況に関する観測調査を行うとともに、ほぼ並行して本学学生を対象に「コモンズ」の利用と学修に関する質問紙調査を実施した。本報告はそれらの調査の概要と結果について報告するものである。今回のこの一連の調査は第一義には、本学の学生施設における学生の利用状況・利用実態、学生施設に対する学生の要望等を把握することで、今後の適切な施設整備と学生支援の充実に寄与することを目的としたものである。

無論、これらの事柄は、今回の調査のみで全面的に把握しきれものではない。その意味では、今回の調査は今後のより詳しい調査のための準備あるいは探索的な調査という側面も有している。

1 調査の背景

1) 近年の大学におけるアクティブ・ラーニング・スペース整備の背景と現状

近年、全国の大学においてアクティブ・ラーニングのためのスペースの整備が進んでいる。複数の学生による共同での学修を含む能動的な学修形態は、現在「アクティブ・ラーニング」と呼ばれているが、文部科学省が実施している「学術情報基盤実態調査」の平成29（2017）年度調査結果によれば、「アクティブ・ラーニング・スペース」は全国512の大学に設置されており、その設置率は65.4%に上る（私立大学に限れば394校。設置率は64.8%）。平成25（2013）年度と同調査における設置大学数が244校（私立大学177校）であったことに鑑みれば、5年間で急速に設置が進んだことがうかがえる¹。

文部科学省の定義によれば、「アクティブ・ラーニング」は「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」であり、「学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」ものである²。学術情報基盤実態調査における「アクティブ・ラーニング・スペース」は、基本的にはこの定義を踏まえ、「複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にするスペースであり、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する人的サービスも提供しているものを指す」としている³。

このようなスペース及び施設の具体的なものとして近年整備が進んでいるのが「ラーニング・コモンズ」（LC）である。LCはもともと1990年代の北米の各大学図書館で整備が進められたインフォメーション・コモンズ（インターネットの普及と各種資料の電子化に伴う図書館利用の新たなニーズに対応するためのサービスセンターとしての性格を持つ）に端を発するものであり、日本においても、2000年代以降、大学図書館の改革の一環として急速に導入が進んでいる。

国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会の実践事例普遍化委員会が2015（平成27）年に作成した「ラーニング・コモンズ（LC）の在り方（共通理解のために）」においては、LCは「学修者中心（Learner-Centered）の新たな教育方法（Pedagogy）の広がり」と要請を踏まえて、授業時間以外に学生が行う自学自習や協同学習（授業に関連した学習及び授業に関連しない学習の両方を含む）など様々な学習形態へ適応するために大学図書館等が提供する学習環境（施設、設備及び情報・コンテンツ）と、この学習環境の活用を通して学生の主体的な学びを促す仕組み（人的支援）の総体を指す」と定義されている⁴。このように、

現在、LC は基本的にアクティブ・ラーニングを促進するためのスペース・設備及びサービスとして捉えられており、アクティブ・ラーニングの導入が各大学において推し進められる中で、その動きと軌を一にしながら整備が進められていると考えられる。例えば文部科学省による調査「大学における教育内容等の改革状況について(平成27年度)」(調査期間は平成28(2016)年12月～平成29(2017)年2月)によれば、回答した769大学のうち482大学(62.7%)が「LCの整備・活用」を全学的な履修指導または学修支援制度の取組の一環として進めていると回答している⁵。平成23(2011)年度と同調査において同様に答えた大学が257大学であったことを考えると、これもまた急速に整備が進んでいると言えよう。

無論、先の文部科学省学術情報基盤実態調査においては、「アクティブ・ラーニング・スペース」は必ずしもLCに限定されていない。しかし、同調査によればアクティブ・ラーニング・スペースの多くは図書館に設置されているため⁶、名称として「ラーニング・コモンズ」を採用しているか否かはともかく、基本的にLCとしての性質を有したのものとして整備されていると考えられる。

それでは、このような近年の日本の大学における共同学修のためのスペース、あるいはアクティブ・ラーニング・スペースの整備推進の流れはどのようにして生じたのであろうか。

アクティブ・ラーニング・スペースの整備推進の方向性を決定づけたのが、平成20(2008)年12月の文部科学省中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて(答申)」⁷及び平成24(2012)年8月の文部科学省中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」⁸であることはおそらく衆目の一致するところであろう。とりわけ「質的転換」答申と呼ばれることになる後者の答申は、現在の日本の大学が求められる改革の基本的な方向性を示している。そこにおいて強調されたのが、学生の学修時間の増加及び確保であり、「学生の主体的な学びを促すアクティブ・ラーニング」の推進である。「予測困難なこれからの時代」を生き抜く力を学生が確実に身に付けることが学生自身の人生と今後の日本の未来を確固とする根幹であるという認識に立ち、「学士力」を基盤としつつ未来社会の形成に寄与する力を育成していくことが現在の大学に求められているとされている⁹。必要とされるのは、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力であり、そのような能力は従来のような知識の伝達・注入を中心とした「受動的な」教育の場では育成することができない。「教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)」への転換が必要であるとされたのである¹⁰。

このように「質的転換」答申等によって示された新しい「学修」のあり方、とりわけアクティブ・ラーニング型の学習スタイルの促進の必要性への対応が、現在の共同学修のためのスペースの整備の流れを形づくる第一のコンテキストであるとすれば、第二のコンテキストは、大学図書館改革の一環としてのLCの展開というコンテキストであろう。上述の通り、

LC はもともとインフォメーション・コモンズを基として発展したものである。すなわち、1990年代以降の急速な情報化の進展を背景に、図書館としてその状況に適応しようとして整備されたインフォメーション・コモンズは、従来の図書館の機能、それも見過ごされがちであった機能に再度注目することでその内実を豊富化していった。その機能を端的に示しているのが、「場所としての図書館 the Library as Place」というキャッチフレーズであろう。情報化の進展が一方で従来の図書館の役割・機能をインターネット空間内でのデジタル中心のサービスに変えていくことが予想される中で、一種の「公共圏」あるいは「社会関係資本」の涵養の場としての図書館の役割を再度評価し、その機能の強化を重視する議論である¹¹。LC はインフォメーション・コモンズの役割を正統に受け継ぎ、利用者の多様なサービス需要に対応する中で、「場としての」機能を強化し、共同での学修や共同での研究の場としての役割を積極的に担っていくようになった。近年のこのような大学図書館改革の流れが、現在の大学における共同学修スペースの整備推進の背景にあると言える。

そして、以上の背景にさらに付け加えるとすれば、学生支援の視点から始まった学習支援・学修支援というコンテキストであろう。平成12（2000）年に発表された文部省高等教育局の報告書「大学における学生生活の充実方策について—学生の立場に立った大学づくりを目指して—」（通称：廣中レポート）は、大学における学生支援のあり方を転換する画期となった報告である。そこでは、進学率の上昇により、資質・能力・知識・興味・関心等の面で学生の多様化が進む中で、大学は「教員」中心の組織から脱却し「学生」中心のあり方へとシフトしていくべきことが説かれるとともに、正課外教育の積極的な捉えなおしが主張され、学生の自主的活動を可能とする学生関連施設やサービスの整備が要請された¹²。同時に、この報告書では学生相談や就職指導と並んで修学指導の重要性が指摘されており、それに応答する形で各大学において「学習支援センター」「学修支援センター」等の組織が整備されていくことになった。独立行政法人日本学生支援機構の「大学等における学生支援の取組状況に関する調査（平成27年度）」によれば、各種学生支援の中でも特に重視すべき領域として「修学・学修支援」の回答率が最も高く、大学全体の72.5%に上っており、修学支援を担当する組織の設置状況についても、1校当たりの組織数が2.3となっており、多くの大学で修学・学修支援の体制が整えられていることがうかがえる¹³。アクティブ・ラーニング・スペースが図書館外に設置されている場合、これらの組織がそれらのスペースを学修支援・学習支援の拠点としながら運営管理している事例もしばしばみられるところである¹⁴。

以上のようにアクティブ・ラーニング・スペースをはじめとする共同学修スペースの整備の流れには異なる複数の背景があるものの、総体としてLCの整備という大きな一つの流れに合流していると思われる。西南学院大学図書館による私立大学図書館協会研究助成報告書「ラーニングコモンズの要素分析—日本における導入を前提として—（第2版）」は、LCの要素（設備および人的サポート）を「テクノロジー支援」「利用者支援」「共同作業スペース」「教育支援」「視聴覚スペース」「滞在支援施設」「展示、イベント」の7つのカテゴリーに分

類し、それぞれの要素について更に細分化を行っている¹⁵。すべての要素を備えている大学・LCはおそらく少なく、各大学とも自らの大学の事情や環境に適した設備や必要とするサービスに傾斜しているものと思われるが、それは日本における共同学修スペースの整備が上記のような複数の流れを背景にしていることも、多少なりとも影響していると思われる。

2) 本学における共同学修スペース「コモンズ」の整備の経緯

続いて、本学における共同学修スペースがどのように位置づけられ、整備されてきたのかを確認しておく。本学において共同での学修が行われるスペースは、通常教室（通常教室もまた授業が行われていない空き時間は使用可能である）に加えて、スタディールームや図書館のグループ学習室等が整備されているが、最も面積・規模が大きく什器が充実しているのは「コモンズ」と名付けられているスペースである。現在「コモンズ」として整備されているのは、「B-コモンズ」「S-コモンズ」「T-コモンズ」の3か所である。

これらの3つのコモンズは同時に設置されたわけではない。また、大学全体における学生施設の整備計画やその他の学生施設との関係あるいは学生の利用状況やその時々々の需要等により、それぞれ少しずつ異なる特色を持つものとして整備されてきた。

まず、平成25（2013）年から、私立大学等改革総合支援事業が文部科学省と日本私立学校振興・共済事業団において共同で実施されたが、本学では、平成26（2014）年度「私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金 タイプ1：教育の質的転換」に申請し、全国208校のうちの1校として採択された。その時に整備されたのが、「T-コモンズ」である。「T-コモンズ」は、従来「T館1階学生ホール」として、自習、飲食、休憩、パソコン使用の場として多目的に使用されていた。ここに可動式ミーティング机、スツール・ベンチ等の什器の他、プロジェクター、スクリーンボード、電子黒板等のICT機器を設置し、少人数ディスカッションや、プレゼンテーションソフトを使用した発表の練習など能動的学修が可能な、いわゆる「ラーニング・コモンズ」（アクティブ・ラーニング・スペース）として整備がなされた。

また、同時期のS館建築構想時には、前掲の「質的転換」答申を踏まえた設計が採用され、2階以上の情報教室以外の教室のうち、少人数の演習室、100人規模の教室はすべてアクティブ・ラーニングに対応した仕様となり、什器は可動式のものが取り入れられ、プロジェクターが設置された。1階における大教室（200～300人規模の階段教室）以外のスペースは、LCとして可動式ミーティング机・スツール、壁面には一人用スツールが配置され、プロジェクター、スクリーンが完備された。これが「S-コモンズ」である。

さらに、2017（平成29）年2月に竣工したB館の2階に「B-コモンズ」が設置された。これは、設計の前段階から詳細な検討を行って整備が進められたものである。当初よりV館（学生会館）食堂の混雑緩和のために軽食とカフェの併設も計画され、昼食混雑時以外はLCとして使用可能にするというコンセプトの下、大型スクリーンを含むICT機器を完備したアクティブ・ラーニング・スペースとなっている。

3) 現在のコモنزの構成と設備配置

現在の本学コモنزの構成と設備、使用に関するルール等は以下の通りである。

① B-コモنز

本学B館2階に設置されたスペースである (471.00㎡)。軽食・カフェスペースを兼ねており、「デリ・カフェ」が設置されているため、飲食可能なスペースとなっている。PC・ホワイトボードは設置されていない。

② T-コモنز

本学T館1階に設置されたスペースである (447.41㎡)。PC・ホワイトボードが設置されている (PC18台、プリンター2台、コピー機1台)。飲食可能なスペースとなっている。

③ S-コモنز

本学S館1階に設置されたスペースである (325.06㎡)。ドリンクの持ち込みは可能であるが、食事は禁止されている。PC・ホワイトボードは設置されていない (一部のみ壁面がホワイトボード仕様となっている)。

2 本学「コモنز」の利用状況

以下、本学の「コモنز」の利用状況についてコモنز調査WGが2018年度に実施した調査結果を報告する。

1) コモنزの利用状況に関する観測調査

① 調査の概要

・調査目的

本学コモنزがどのように利用されているか、その利用状況・利用実態を把握することを目的とした。

・調査期間

2018 (平成30) 年6月28日 (木)、29日 (金) を第1期、7月26日 (木)、27日 (金) を第2期として調査した。木曜日は本学全体の履修登録人数が比較的多い曜日であり、大学に登校している学生が多いと思われる曜日である。2期とも、木曜日に加え同一の週の別日1日を合わせた2日間について実施した。なお、第1期・第2期ともに通常授業期間中であるが、第2期は前期試験期間の直前週である。

・調査方法

授業前 (8:45~9:05の間に実施)・5限までの各授業時間中 (授業中間時点 (45分) を挟んで20分間、授業開始後35分~55分の間に実施)・昼休み (12:35~12:55の間に実施)・5限終了後 (18:20~18:40の間に実施) の計8回、各コモنزの利用人数と利用実態につ

いて調査票に記入した(非参与観察)。調査項目としては、滞在場所(コモンズ内のどこを利用しているか)、利用行動(どのような行動をしているか)、利用物(利用している什器はあるか)、利用人数(個人での利用か、グループでの利用か。グループであれば何人で利用しているか)の4点である¹⁶。教職員等、学生以外による利用と思われる事例も若干含まれている。なお、WG内の3名による調査となったため、行動把握の際に解釈の違いが極力生じないようにするために、事前に観察者同士ですり合わせを行った。調査票に記入した利用者の行動は以下の通りである。

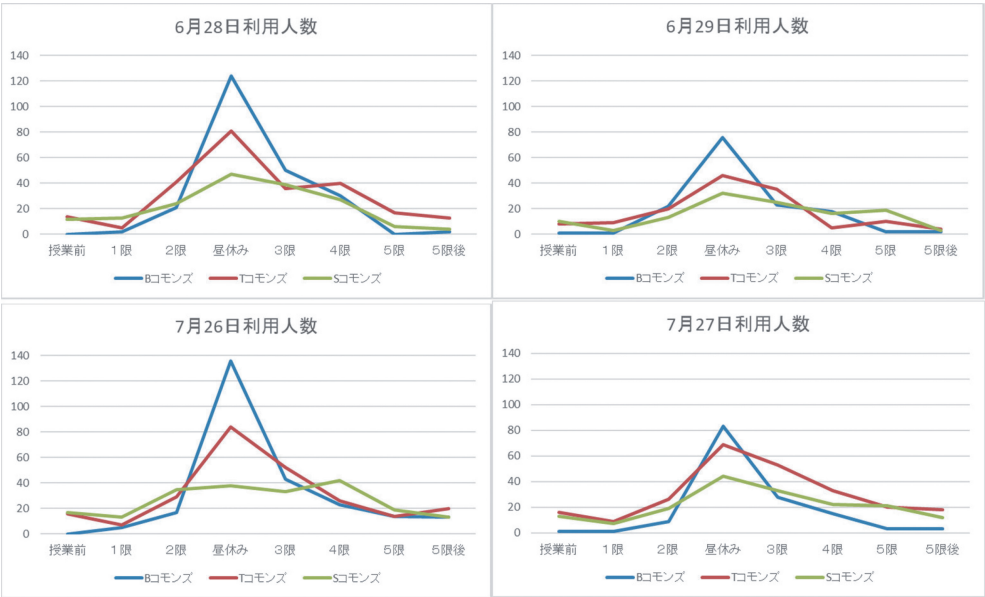
GL	グループ学修	IL	個人学修
GT	グループで学修以外の行動(談話等)	IA	個人で学修以外の行動 (スマートフォンの使用等)
GM	グループで食事	IM	個人で食事
GP	グループでPC使用	IP	個人でPC使用
S	寝ている	N	特に何もしていない
U	行動の判別ができない場合	O	その他の行動

② 調査結果

・利用者数

以下は利用者数とその推移を表したものである。各コモンズとも昼休み中の利用者数が最も多く、午前中の利用は比較的少ない。「デリ・カフェ」が設置されているB-コモンズは昼休み中の食事利用が多い。また、第1期と第2期を比較すると、試験直前期である第2期の方が若干利用者数が多く、とりわけ5限及び5限後の利用者数が増加している。

	6/28B	6/28T	6/28S	6/29B	6/29T	6/29S	7/26B	7/26T	7/26S	7/27B	7/27T	7/27S
授業前	0	14	12	1	8	10	0	16	17	1	16	13
1 限	2	5	13	1	9	3	5	7	13	1	9	7
2 限	21	41	24	22	20	13	17	29	35	9	26	19
昼休み	124	81	47	76	46	32	136	84	38	83	69	44
3 限	50	36	39	23	35	25	43	52	33	28	53	33
4 限	30	40	27	18	5	16	23	26	42	15	33	22
5 限	0	17	6	2	10	19	14	14	19	3	20	21
5 限後	2	13	4	2	4	3	13	20	13	3	18	12
計	229	247	172	145	137	121	251	248	210	143	244	171



・利用形態の累計

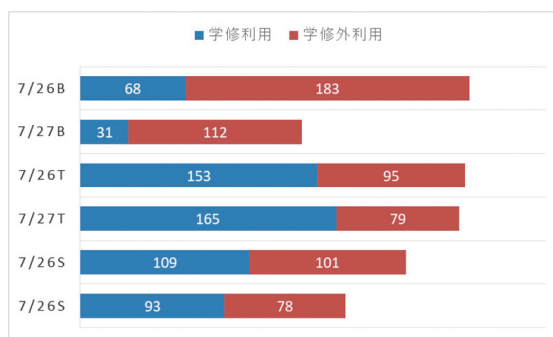
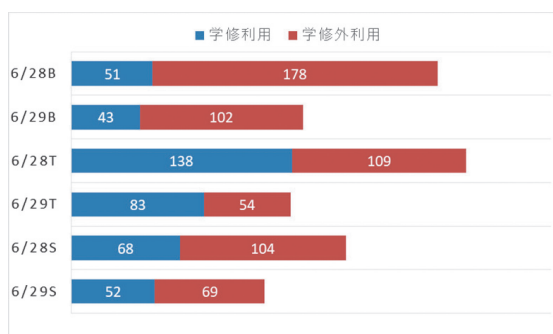
利用形態の累計は以下の通りである。なお（ ）内の数値はグループ数を示している（B
ー commonsの昼休み中の利用については、食事利用で多くの席が埋まっている状況であり、
個人利用かグループ利用か、あるいは1グループの人数が何名かについて、判別の困難な事
例もあったが、視認できる限りで判断した）。

	GL	GT	GM	GP	IL	IA	IM	IP	S	N	U	O	計
6/28B	40(14)	32(13)	119(40)	5(1)	6	11	3	0	6	1	0	7	229
6/29B	29(12)	18(7)	67(24)	0	13	7	4	1	0	0	0	6	145
6/28T	69(24)	38(14)	33(10)	14(5)	30	16	18	25	3	1	0	0	247
6/29T	25(9)	20(8)	16(6)	4(2)	19	11	6	35	1	0	0	0	137
6/28S	38(13)	48(14)	7(2)	0	29	31	7	1	6	3	0	2	172
6/29S	16(5)	29(7)	5(2)	2(1)	30	17	7	4	6	1	0	4	121
	217	185	247	25	127	93	45	66	22	6	0	19	1051

	GL	GT	GM	GP	IL	IA	IM	IP	S	N	U	O	計
7/26B	60(24)	37(15)	134(40)	0	7	6	3	1	3	0	0	0	251
7/27B	18(8)	28(9)	71(26)	0	13	4	8	0	1	0	0	0	143
7/26T	46(20)	30(12)	37(10)	7(3)	45	22	5	55	1	0	0	0	248
7/27T	91(33)	33(11)	27(11)	4(2)	33	12	4	37	2	1	0	0	244
7/26S	43(14)	51(16)	8(3)	2(1)	59	26	6	5	6	0	0	4	210
7/27S	58(21)	38(10)	4(2)	0	32	22	4	3	7	0	0	3	171
	316	217	281	13	189	92	30	101	20	1	0	7	1267

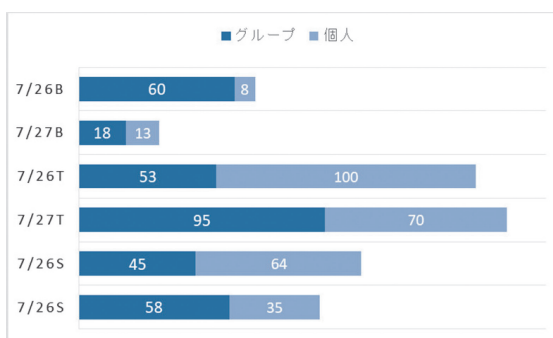
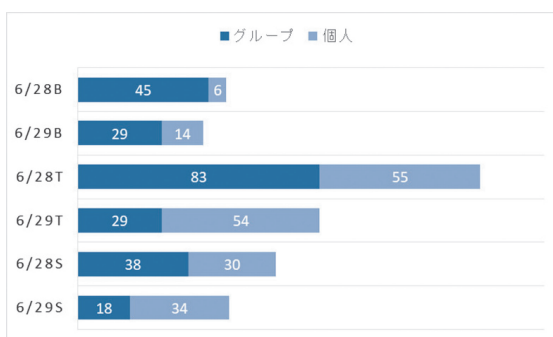
・学修利用とそれ以外の利用

上述の通り、本学のコモンズは現在のところ、学修利用のみを目的としているわけではない。グループ学修及びグループでの PC 利用（GL、GP）と、個人学修及び個人での PC 利用（IL、IP）を学修利用とした場合、各コモンズの学修利用とそれ以外の利用状況は以下の通りである。「デリ・カフェ」が設置されている B－コモンズはやはり昼休み中の食事利用が多いため、比率としては学修以外の利用が高い。T－コモンズは食事利用が可能であるものの、学修利用の比率が他のコモンズに比べても高いという結果であった。



・学修の形態

コモンズはアクティブ・ラーニングを可能とするスペースとして設置されており、グループ学修に資する什器も多く配置されている。学修利用のうち、グループ学修での利用者数と個人学修での利用者数は以下の通りである。B－コモンズはグループ学修での利用が多く、個人学修での利用の割合が少ない。それ以外のコモンズは、グループ学修での利用と個人学修での利用が混在している。また、グループ学修における 1 グループの平均人数は 2.72 人であった（B－コモンズ平均 2.67 人、T－コモンズ平均 2.65 人、S－コモンズ平均 2.76 人）。



2) コモンズの利用状況に関する質問紙調査

① 調査の概要

・調査目的

コモンズの利用状況に関する観測調査と同様に、本学コモンズがどのように利用されているか、その利用状況・利用実態を把握すること、また、あわせて施設設備及び学修支援サービスに関する学生の要望を確認し、今後の施設改善や高等教育における学修支援のあるべき姿に関する考察の参考にすることを目的として行った。

・調査方法と期間

本学学生部の協力の下、全学生に対して e-mail にて Web 上での回答フォームを案内するとともに、学生部での用紙配布も行った。Web 上での回答受付期間は2018（平成30）年7月19日から7月31日である（なお、試行として6月29日に一部の学生（7名）に回答してもらっている）。用紙配布は7月13日より行った。当初、配布及び回答期限はそれぞれ7月9日、7月27日となる予定であったが、自然災害による休校等により、予定より遅れが生じ回答期限を7月31日とした。上記調査目的のほか、無記名・任意による調査であること、目的外使用を行わないこと等を明記した。また、Web での回答フォームへの案内に際しては用紙による回答との重複回答がないように注意喚起した。

・回収票

Web 上での回答フォームへの回答数は152名分であり、用紙での回答数は314名分であった。用紙での回答には無記入等による無効回答が2名分含まれていたため、有効回答数は464名分である。本学在学生3,125名（調査時点）を母数として14.8%に相当する。回答者の所属等に関する基礎データは以下の通りである。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	修士	無回答	計	%
表現文化学科	31	34	24	3					92	19.83
実践英語学科	7	8	5	3				1	24	5.17
総合歴史学科	27	21	25	8					81	17.46
初等教育学科	16	6	4	6					32	6.90
教育心理学科	9	11	14	17					51	10.99
薬学科	12	18	25	7	6	10	1		79	17.03
経営学科	14	16	8	6					44	9.48
幼児教育学科	3	2							5	1.08
生活実践科学科	33	20							53	11.42
人文科学研究科							1	1	2	0.43
医療薬学研究科								1	1	0.22
計	152	136	105	50	6	10	2	3	464	
%	32.76	29.31	22.63	10.78	1.29	2.16	0.43	0.65		

② 調査結果

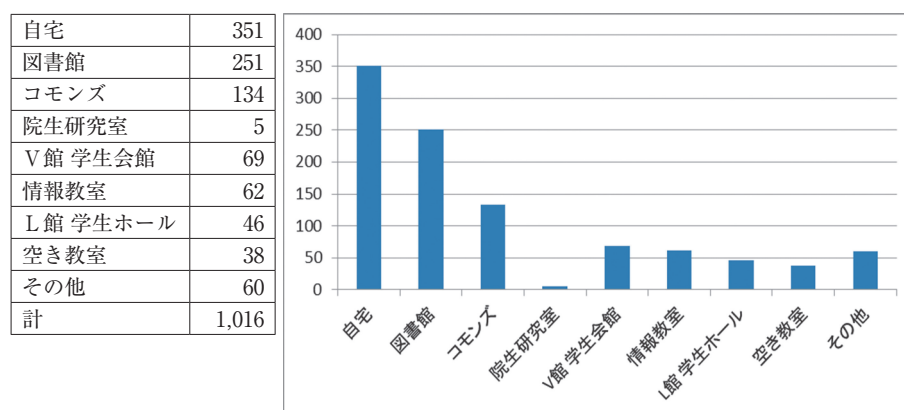
・1日の学習時間(自主学習)について(設問4)

1日の学習時間については、6割以上の回答者が60分未満と答えており、前掲の「質的転換」答申等において懸念されている大学生の学修時間の少なさを裏付ける結果となっている。ほとんど自主学習を行わないと答えた回答者も15%に上った。

ほとんど自主学習を行わない	70	15.09%
30分未満	73	15.73%
30分～60分未満	153	32.97%
60分～90分未満	74	15.95%
90分～120分未満	35	7.54%
120分以上	57	12.28%
無回答	2	0.43%
	464	100.00%

・自主学習の際に使用する場所について(設問5(複数回答可))

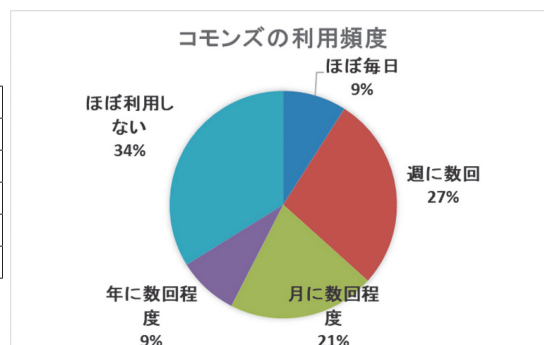
自宅との回答が最も多く、次いで図書館、コモンズの順となった。



・コモンズの利用頻度について(設問6)

「ほぼ利用しない」と「年に数回程度」と答えた回答を合わせると4割に上る。上記の結果と合わせるとコモンズが日常的な自主学習の場として必ずしも定着していないことがうかがえる。

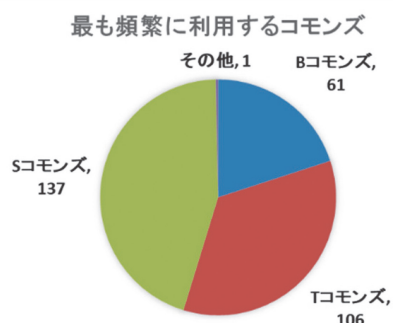
ほぼ毎日	42	9.05%
週に数回	128	27.59%
月に数回程度	97	20.91%
年に数回程度	40	8.62%
ほぼ利用しない	157	33.84%
計	464	100.00%



・最も頻繁に利用するコモンズについて（設問7）

最も頻繁に利用するコモンズについては、S－コモンズと答えた回答者が約45%を占めた（観測調査においては、S－コモンズの利用者数は他の2つのコモンズよりも少ないという結果であった）。

Bコモンズ	61	20.00%
Tコモンズ	106	34.75%
Sコモンズ	137	44.92%
その他	1	0.33%
計	305	100.00%

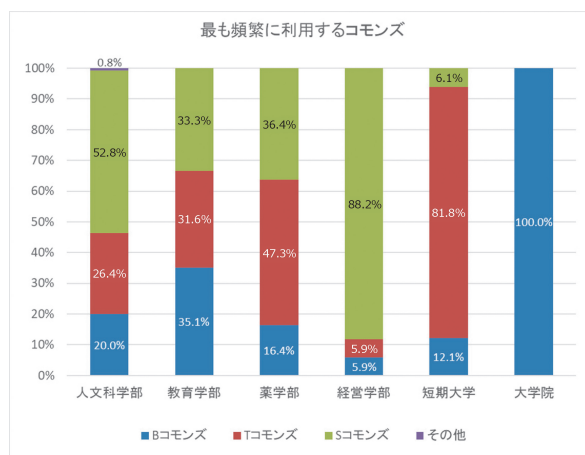


なお、設問6の利用頻度についての回答毎の集計は以下の通りである。

	Bコモンズ	Tコモンズ	Sコモンズ	その他	無回答	計
ほぼ毎日	11	14	16		1	42
週に数回	26	44	57	1		128
月に数回程度	20	34	43			97
年に数回程度	4	14	21		1	40
ほぼ利用しない					157	157
計	61	106	137	1	159	464

また、学部別に集計した利用コモンズの割合は以下の通りである。

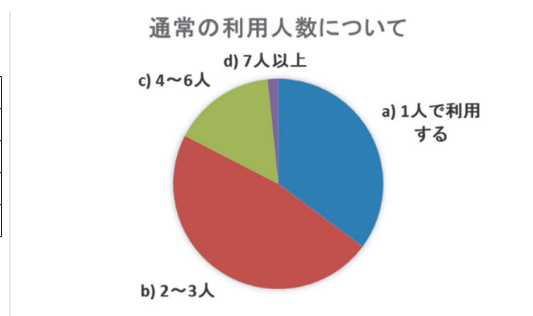
	Bコモンズ	Tコモンズ	Sコモンズ	その他	合計
人文科学部	25	33	66	1	125
教育学部	20	18	19	0	57
薬学部	9	26	20	0	55
経営学部	2	2	30	0	34
短期大学	4	27	2	0	33
大学院	1	0	0	0	1



・通常、コモンズを利用する際の人数について(設問8)

半数近くの回答者が2～3人での利用と回答しており、観測調査の結果とおおむね合致している。

a) 1人で利用する	107	35.20%
b) 2～3人	144	47.37%
c) 4～6人	48	15.79%
d) 7人以上	5	1.64%
	304	100.00%



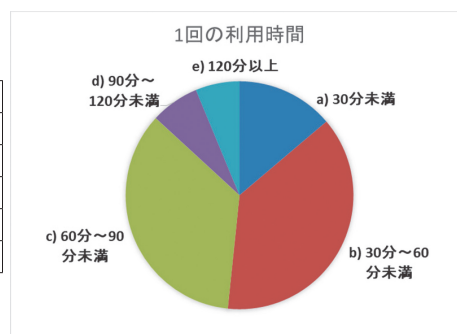
設問7で最も頻繁に使用すると答えたコモンズ毎の集計は以下の通りである。Sコモンズの個人利用が多いが、観測調査の結果と合わせると、個人による学修外利用が多い可能性がある。

	a)	b)	c)	d)	計
Bコモンズ	13	30	16	1	60
Tコモンズ	33	52	18	2	105
Sコモンズ	60	61	14	2	137
その他・無回答	1	1			2
計	107	144	48	5	304

・コモンズを利用する際の1回の利用時間について(設問9)

90分を超える長時間の利用は少ない。

a) 30分未満	42	13.82%
b) 30分～60分未満	115	37.83%
c) 60分～90分未満	107	35.20%
d) 90分～120分未満	21	6.91%
e) 120分以上	19	6.25%
	304	100.00%



設問7で最も頻繁に使用すると答えたコモンズ毎の集計は以下の通りである。

	a)	b)	c)	d)	e)	計
Bコモンズ	8	25	17	4	6	60
Tコモンズ	13	39	41	9	4	106
Sコモンズ	21	51	47	8	9	136
その他・無回答			2			2
計	42	115	107	21	19	304

・上記のコモンズを利用する理由について（設問10（複数回答可））

時間割や教室移動の都合上、最も使用しやすい	174
人が少ない	69
人が多い	5
一緒に集まる友人やグループのメンバーの都合	67
設備が新しい・良い	74
コモンズの設備が自分（たち）の利用目的に合っている	57
雰囲気が良い	63
先生の指示	1
サークル等のグループの決定	2
その他	22
計	534

・上記のコモンズの利用目的について（設問11（複数回答可））。

授業の一環（ゼミや授業内での利用）	19
授業前の準備・予習	154
授業後の復習及び課題対応	123
資格試験（国家試験含む）のための勉強	25
自主的なグループ学習	47
部活・サークルの活動（ミーティング等）	11
ゼミ活動に関わる自主的な活動	13
部活・サークル以外のグループ活動（ミーティング等）	8
その他	50
計	450

・現在のコモンズの設備（机・椅子・ホワイトボード・情報機器（コンセント等含む））についての評価（設問12 1とてもよい（利用目的に合致）／2よい／3普通／4あまりよくない／よくない（合致していない）の5件法）

	とてもよい	よい	普通	あまりよくない	よくない	計
机	89	155	157	29	8	438
椅子	86	134	164	45	9	438
ホワイトボード	62	118	215	26	16	437
情報機器	79	111	172	57	17	436

・現在のコモンズの設備についての要望等（設問13 自由記述）

S－コモンズの椅子と机に対する不満（学修に適していないという意見）とPCの数及び質に対する不満・要望が目立った。いずれも学修環境に直結しているものであり、早急な対応が必要となる。

椅子についての不満	19
机についての不満（数と質）	6
一人用の席の充実の要望	8
コンセント設置の要望	15
PCについての要望（数と質）	13
その他の設備・什器の設置・改善についての要望	10
その他	3
特になし	15

・利用したいと思う設備・什器（設問14（複数回答可））

コピー機設置の希望が目立った。現在のところT-コモンズにしか設置はされていない。パソコン・タブレットの貸し出しの希望、及び近年のLCで多く採用されているボックス席に対する希望が多いという結果となった。

プレゼンテーション用のプロジェクター	34
ホワイトボード	45
電子黒板（書いた内容をデジタルな情報に変換できる黒板）	54
コピー機	231
パソコン・タブレットの貸し出し	176
可動式パーテーション（間仕切り）	84
荷物入れ用サイドワゴン	97
ファミレス風ボックス席	147
ベンチ・ソファ	123
その他	13
計	1,004

・利用したいと思うサービス（設問15（複数選択可））

現在、多くの大学において実施されているレポートや論文の作成支援やラーニングアドバイザーのサービスの要望が多いという結果となった。特にレポートや論文の作成支援の要望は突出している。「その他」の意見は、開館時間の延長の希望等、他の質問項目でも示されている要望とほぼ重なっていた。

履修や学習全般について相談等ができるラーニングアドバイザーのサービス	96
ノートの取り方や情報のまとめ方等のアカデミックスキルに関する講習会	54
語学学習の支援	59
レポートや論文の作成支援	211
コミュニケーションスキルやリーダーシップを高めるワークショップ	33
仲間づくりのためのイベントや集まり	78
学習成果や活動成果を発表する展示・発表スペース	28
その他	6
計	565

・現在のコモンズへの不満や今後のコモンズのあり方についての要望（設問16 自由記述）

設備に対しての不満及び席数の不足についての不満に関しては、設問13と重なる意見が多く見られた。

利用時間の延長の要望	3
設備についての不満	17
席数の不足についての不満	7
Sコモンズ飲食禁止についての反対意見（飲食許可希望）	10
飲食禁止のルールが守られていないことについての不満	4
利用ルールと他の学生の使い方に対する不満	12
コモンズの周知についての意見	4
その他の要望・提案（コモンズの増加・拡充等）	5
特になし	18

3 まとめ

最初に述べた通り、今回実施した一連の調査は第一義には、本学の学生施設における学生の利用状況・利用実態、学生施設に対する学生の要望等を把握することで、今後の適切な施設整備と学生支援の充実に寄与することを目的としている。また同時に、学生の利用状況・利用実態から本学学生の学修実態を探り、施設の物理的な整備・充実にとどまらず、様々なアプローチによる広い意味での学修支援の充実へつなげることも企図している。ただし、今回の調査結果は必ずしも直截に本学の学生支援の向かうべき方向性を指し示すものではない。先述の通り、今後の改善に向けた更なる詳細な調査のための探索的な性格を少なからず持っている。利用実態についての聞き取りも含めたより広範で詳細な調査が今後求められるだろう。とはいえ、今回の調査結果から本学学生の学修状況の一端を垣間見ることは可能であるし、今後の施設改善や学生支援の改善に即座につながりうる視点をいくつか見出せたことも事実である。学生の学修時間の少なさ、とりわけグループでの共同学修の少なさは、施設等のハード面での工夫や支援の拡充が必要であることを示すとともに、授業をはじめとするソフト面においても大学全体での取り組みを必要としていると言えよう。また、「利用したいと思うサービス」に関する問いにおいて、レポートや論文の作成支援の要望が突出して多いことは、本学学生の現在の「悩み」を表していると言えるかもしれない。学修支援が多く大学の大学において組織的に整備・実施されていることを踏まえ、本学においても学生支援の一環として学修支援をより広範に実施していくことも検討されるべきである。あるいは、学修支援に限らず、LCの要件の一つである人的支援をはじめとする「学生の主体的な学びを促す仕組み」をさらに充実させていく必要もあるだろう。さらに、現在のコモンズへの不満や設備・什器に対する改善希望等については、学修環境に直結するものが多く、早急な検討と対応が必要と思われる。

無論、施設や支援のあり方についての改革・改善においては、学生の要望は重視されるべきではあるが、その指針として、本学が今後推し進めるべき学修のあるべき姿について広範囲での本質的な議論が要請されることは言うまでもない。今回の調査はそのための前提となりうるものでもある。

就実大学・就実短期大学における共同学修スペース(「コモンズ」)の利用状況に関する調査報告

(資料) コモンズの利用状況に関する質問紙調査 調査項目

本学「コモンズ」をはじめとする学生施設の利用状況についての調査(アンケート)

このアンケート調査は、本学の「コモンズ(※)」をはじめとする学生施設についてその利用状況や学生施設に対する要望等を調査・分析し、今後の施設改善や高等教育における学習支援のあるべき姿に関する考察の参考にするを目的として行うものです。以下のアンケートにお答えいただき、率直な意見・要望をお聞かせください。

※ 本学の「コモンズ」は、B館2階のBコモンズ、S館1階のSコモンズ、T館1階のTコモンズの3つの施設を指します。

- アンケート調査への協力は任意です。アンケート提出により同意を得たものとみなします。
- 回収したアンケート結果は、調査研究終了後、適切な方法で商業処理することし個人が特定されないようにします。また、この調査で取得した個人情報及び調査結果は、上記の目的以外には一切使用しません。
- アンケート調査の結果は、調査結果報告書又は学会発表・論文等の形で公表されることがありますが、回答内容は統計的に処理されるため、特定の個人が識別できる情報として公表されることはありません。
- アンケート提出の切目は、7月27日(金)17:00とします。学生課前(R館1F)に設置してある専用ボックスに提出してください。
- 本調査に関するお問い合わせ先

就実大学・就実短期大学 教育開発センター odo@shu.aits.uac.jp

※ 当てはまる答えに○をつけてください。

問1 所属学科・所属研究科を選択してください。

1) 表現文化学科 2) 実用英語学科 3) 総合経営学科 4) 初等教育学科 5) 教育心理学
6) 薬学科 7) 経営学科 8) 幼児教育学科 9) 生活実科学科 10) 人文科学研究科
11) 教育学研究科 12) 医療薬学研究科

問2 学年を選択してください。

1) 1年 2) 2年 3) 3年 4) 4年 5) 5年 6) 6年
7) 修士課程 8) 博士課程

問3 差し支えなければ性別をお答えください(この設問への回答は任意です)。

1) 女性 2) 男性 3) その他

問4 あなたの1日の学習時間(自主学習)について、最も近いものを選択してください。

1) ほとんど自主学習を行わない 2) 30分未満 3) 30分～60分未満
4) 60分～90分未満 5) 90分～120分未満 6) 120分以上

問5 自主学習の場として使用する場所について、選択してください(複数回答可)。

1) 自宅 2) 図書館 3) コモンズ 4) 脱研究室 5) V館 学生会館 6) 情報教室
7) L館 学生ホール 8) 空き教室
9) その他(具体的に)

問13 上記の設備について要望等がありましたら具体的に書いてください(自由記述)

問14 コモンズに次の設備があったら利用したいと思うものを選択してください(複数選択可)。

1) プレゼンテーション用のプロジェクター 2) ホワイトボード
3) 電子黒板(書いた内容をデジタルな情報に変換できる黒板) 4) コピー機
5) パソコン・タブレット等の貸出し 6) 可動式バーデーション(隠し切り)
7) 持ち入れ用サイドワゴン 8) ファミレス風ボックス席 9) ベンチ・ソファ
0) その他(具体的に)

問15 コモンズに次のサービスがあったら利用したいと思うものを選択してください(複数選択可)。

1) 履修や学習全般について相談等ができるラーニングアドバイザーのサービス
2) ノートの取り方や情報まとめ方等のアカデミックスキルに関する講習会
3) 語学学習の支援
4) レポートや論文の作成支援
5) コミュニケーションスキルやリーダーシップを高めるワークショップ
6) 仲間作りのためのイベントや集まり
7) 学習成果や活動成果を発表する展示・発表スペース
8) その他(自由記述)

問16 現在のコモンズへの不満や今後のコモンズのあり方について要望等がありましたら具体的に記述してください(自由記述)。

問17 後日、より詳細な聞き取り調査への協力をお願いすることがあります。ご協力いただける方は学務番号とお名前をお書きください(任意)。

学務番号: 名前: 協力ありがとうございました。

問6 コモンズの利用状況について、最も近いものを選択してください。

1) ほぼ毎日 2) 週に数回 3) 月に数回程度 4) 年に数回程度 5) ほぼ利用しない

<以下は問6の質問で1～4を選択した方に質問です(問11まで)>

問7 どのコモンズを最も頻繁に利用しますか。
1) Bコモンズ 2) Sコモンズ 3) Tコモンズ

問8 通常、あなたがコモンズを利用する際、どのくらいの人数で利用しますか。最も近いものを選択してください。

1) 1人で利用する 2) 2～3人 3) 4～6人 4) 7人以上

問9 コモンズを利用する際、1回の利用時間について、最も近いものを選択してください。

1) 30分未満 2) 30分～60分未満 3) 60分～90分未満 4) 90分～120分未満
5) 120分以上

問10 上記のコモンズを利用する理由について、最も近いものを選択してください(複数回答可)。

1) 時間割や教室移動の都合上、最も使用しやすい 2) 人が少ない 3) 人が多い
4) 一緒に集まる友人やグループのメンバーの都合 5) 設備が新しい・良い
6) コモンズの設備が自分(たち)の利用目的に合っている 7) 雰囲気が良い
8) 先生の指示 9) サークル等のグループの決定
0) その他(具体的に)

問11 上記のコモンズの利用目的について、近いものを選択してください(複数回答可)。

1) 授業の一環(ゼミや授業内での利用) 2) 授業受講前の準備・予習
3) 授業受講後の復習及び課題対応 4) 資格試験(国家試験含む)のための勉強
5) 自主的なグループ学習 6) 部活・サークルの活動(ミーティング等)
7) ゼミ活動に関わる自主的な活動
8) 部活・サークル以外のグループ活動(ミーティング等)
9) その他(具体的に)

問12 現在のコモンズの設備について評価してください。

1 とてもよい 2 よい 3 普通 4 あまりよくない 5 よくない
(利用目的に合致) (合致していない)

・机 1—2—3—4—5
・椅子 1—2—3—4—5
・ホワイトボード 1—2—3—4—5
・情報機器 1—2—3—4—5
(コンセント等の設備も含む)

¹ 総務省統計局 HP 政府統計の総合窓口 (e-Stat)、学術情報基盤実態調査／平成29年度 大学図書館編 (文部科学省)。https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=dataset&toukei=00400601&tstat=000001015878&cycle=0&tclass1=000001113547&tclass2=000001113548&stat_infid=000031683847&second2=1 (参照2018年10月25日)

² 中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申) (平成24年 8月28日) 用語集」2012年、35頁。http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/giji/_icsFiles/afiedfile/2012/03/28/1319067_2.pdf (参照2018年10月25日)

³ 総務省統計局 HP 政府統計の総合窓口 (e-Stat)、学術情報基盤実態調査／平成29年度 大学図書館編凡例 (文部科学省) 2018年、4頁。https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=dataset&toukei=00400601&tstat=000001015878&cycle=0&tclass1=000001113547&tclass2=000001113548&stat_infid=000031683826&second2=1 (参照2018年10月25日)

⁴ 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会実践事例普遍化委員会「ラーニング・コモンズ (LC) の在り方 (共通理解のために)」、国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会編『ラーニング・コモンズの在り方に関する提言 実践事例普遍化小委員会報告』2015年、20頁。https://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503a.pdf (参照2018年10月25日)

⁵ 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室「平成27年度の大学における教育内容等の改革状況について (概要)」2017年、16頁。http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afiedfile/2017/12/13/1398426_1.pdf (参照2018年10月25日)

⁶ 上記の「学術基盤実態調査平成29年度調査結果」によれば、図書館内にアクティブ・ラーニング・スペースを設置している大学は431校である。ただし、図書館外にアクティブ・ラーニング・スペースを設置している大学も134校存在しており (50校ほどは内外ともに設置していると思われる)、必ずしも LC だけがアクティブ・ラーニングを促進する役割を担っているわけではない。

⁷ 中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて (答申) (平成20年12月24日)」2008年。http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afiedfile/2008/12/26/1217067_001.pdf (参照2018年10月25日)

⁸ 中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申) (平成24年 8月28日)」2012年 http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afiedfile/2012/10/04/1325048_1.pdf (参照2018年10月25日)

⁹ 前掲答申、1-8頁。

¹⁰ 前掲答申、9頁。

¹¹ 北米を中心とした「場としての図書館」に関する議論を整理する論考として、久野和子「〈研究ノート〉「第三の場」としての図書館」京都大学生涯教育学・図書館情報学研究、2010年、

vol.9, pp.109-121. また立石亜紀子「大学図書館における「場所としての図書館」の利用実態」*Library and Information Science*, 2012年、no.67, pp.39-61. 及び加藤信哉・小山憲司編訳『ラーニング・コモンズ：大学図書館の新しいかたち』勁草書房、2012年等を参照した。

¹² 文部省高等教育局「大学における学生生活の充実方策について―学生の立場に立った大学づくりを目指して―」2000年。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/012/toushin/000601.htm (参照2018年10月25日)

¹³ 独立行政法人日本学生支援機構「大学等における学生支援の取組状況に関する調査(平成27年度)集計報告(単純集計)」2017年、10頁。https://www.jasso.go.jp/about/statistics/torikumi_chosa/_icsFiles/afieldfile/2017/02/14/h27torikumi_chosa.pdf (参照2018年10月25日)

¹⁴ 例えば、LC の具体例・成功例として取り上げられることの多い同志社大学良心館 LC は図書館とは独立した施設であり、学習支援・教育開発センターによって運営・管理が行われているとのことである。岡部晋典・鈴木夕佳「同志社良心館ラーニング・コモンズ揺籃期の一年：アカデミック・インストラクターの視座を通して」『同志社大学 図書館学年報』(39)、2014年、69-77頁。

¹⁵ 西南学院大学図書館編「私立大学図書館協会研究助成報告書ラーニングコモンズの要素分析―日本における導入を前提として―(第2版)」私立大学図書館協会、2011年。http://www.jaspul.org/pre/josei/houkoku2011_seinangakuin.pdf (参照2018年10月25日)

¹⁶ これらの調査項目については前掲の立石亜紀子「大学図書館における「場所としての図書館」の利用実態」の調査枠組みを参考とした。

